

『建築工芸叢誌／建築工芸画鑑』の主な執筆者とその記事

執筆者	肩書き	記事名
浅井寛哉	東京水産研究所貝介彫刻科教授	御質問所の欄間／女性勅皇家村岡の像
石井吉次郎	東京美術学校助教授	久能山東照宮の修繕
伊東忠太	東京帝国大学工科大学教授・工学博士	二楽荘の建築／芸術の根底／塔(連載)
今泉雄作	東京帝室博物館美術工芸部長	純日本式住宅／尾形乾山
岩村透	東京美術学校教授・男爵	私の新宅
鶴飼長三郎	西本願寺技師	二楽荘建築工事概要
海野勝珉	東京美術学校教授・帝室技芸員	御物太平楽の置物
海野美盛	東京美術学校教授	銀製高砂の島台
大熊喜邦	工学士(大蔵省技師)	芝罘廟の花狭間(連載)／住宅二種
大倉喜八郎	大倉財閥創始者	蔵春閣建築瑣談
大澤三之助	東京美術学校教授・工学士	好文亭(連載)／ガーデン、シチーに就て(連載)
大塚泰	工学士	鉄筋コンクリート通俗的講和(連載)／気候と建築工事／建築家の隠れたる苦心(上・下)／建築の概念／建築の工費
岡田信一郎	東京美術学校教授・工学士	高木博士邸の建築
香川勝廣	帝室技芸員	先帝陛下の御太刀に就て
葛西萬司	工学士(辰野葛西事務所)	洋風建築の設計(連載)
笠原敏郎	工学士(内務省技師)	航空術の発達に伴ふ建築
香取秀真	東京美術学校講師	引手金具と釘隠
久米桂一郎	東京美術学校教授	カルナックの遺跡
黒田清輝	東京美術学校教授・帝室技芸員	住宅の快感／建築物と壁画
黒田鵬心	文学士	中尊寺美術論(連載)
古宇田實	東京美術学校教授・工学士	茶ノ会の趣味と住宅建築／大徳寺塔中大仙院の名庭を見て
佐藤功一	工学士(早稲田大学教授)	我国の庭園と住宅(連載)
滋賀重利	東京高等工業学校教授	建築瑣談
清水米吉	建具職	三井男爵邸書院と書斎
関野貞	東京帝国大学教授・工学博士	慶州の掛陵／多久聖廟
高村光雲	東京美術学校教授・帝室技芸員	羅漢寺の五百羅漢／古社寺と奉納額／先帝御用品の雉鶏の置物
竹内久一	東京美術学校教授・帝室技芸員	森川杜園
武田五一	京都高等工芸学校教授・工学士	平等院の裝飾に就て(連載)／建築美術界の三大流派に就て
辰野金吾	帝国大学名誉教授・工学博士	洋風建築の設計(連載)／現時の請負業者に対する吾人の希望(上・下)／大阪市公会堂設計図案概評(連載)
妻木頼黄	工学博士(大蔵省技師)	本邦建築石材(連載)
中丸精十郎	東京工芸学校嘱託	モザイク
中村傳治	工学士(横河工務所)	自動階段／米国式安普請に就て
沼田一雄	東京美術学校教授	鑄鉄の臥牛
野原貞明	東京彫工会審査部長	螺鈿と介甲嵌入
波多野承五郎	日本新聞社長、三井銀行取締役	室内裝飾としての盆栽
福井江亭	東京美術学校教授	美術と工芸の一致
藤島武二	東京美術学校教授	画室
藤谷栄尾	東京帝室博物館美術工芸部技手	萬古焼／永楽焼／薩摩焼／対馬焼／信楽焼／美濃焼ほか／陶工仁清
本郷高德	東京帝国大学農科大学講師	Villaの庭園／庭園的修飾の上から見た帝都(連載)
本多静六	東京帝国大学農科大学教授・林学博士	東京市に於ける街路／住宅の一例
松岡壽	東京高等工業学校教授	ポンベキ(連載)／希臘芸術の裝飾特徴(連載)
松岡輝夫	東京美術学校助教授	絵巻に見えたる畳、建具其他の建築附属物(連載)
山中彦三	大倉組	向島の倉氏別邸
山本瑞雲	彫刻家	居宅の欄間彫刻
由井彦太郎	木象嵌研究家	我国の木象嵌(連載)／中村是公氏鎌倉別荘
吉武長一	村井本店技師	村井本店の建築

おすすめ
します

建築史
美術史
工芸史
庭園史

都市史
社会史
風俗史
大学図書館／公共図書館

建築工芸叢誌 建築工芸画鑑

復刻版 全8巻

◆監修・解題

内田青蔵(神奈川大学教授)

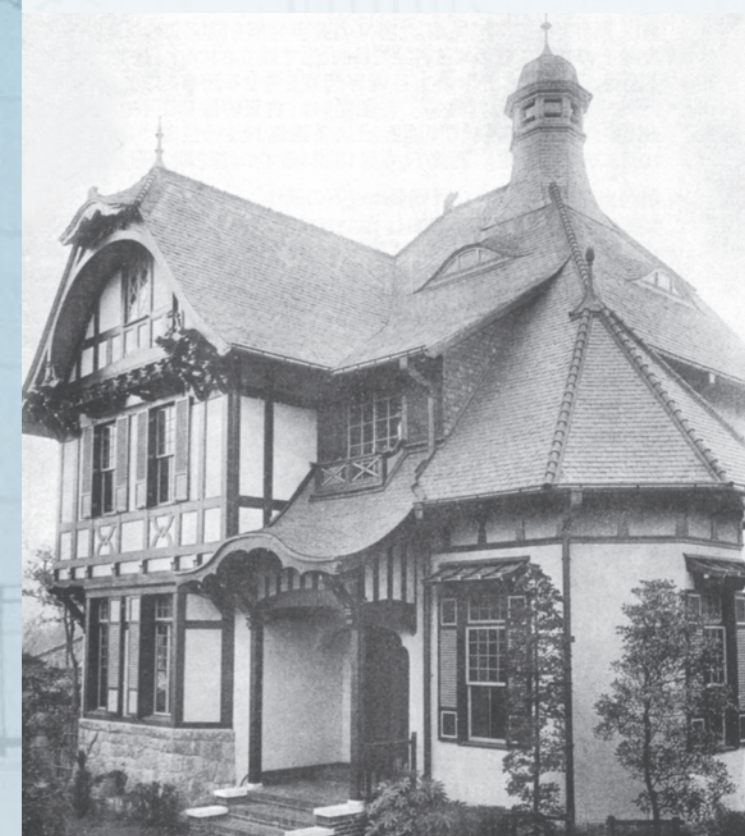
◆造本体裁

B4判上製・函入 総3,020頁

揃定価(本体250,000円+税)*分売不可

ISBN4-7601-2904-9

日本近代建築・工芸・美術の
黎明期を支えた先駆けらの
思考を読み取る！
歴史的に大変貴重な
写真や図版を大判サイズで
多数収録する



柏書房

〒113-0033 東京都文京区本郷 2-15-13
Tel.03-3830-1891 Fax.03-3830-5337
URL <http://www.kashiwashobo.co.jp>
E-mail eigyo@kashiwashobo.co.jp

取
扱
店

日本近代建築を創造した伊東忠太、辰野金吾、武田五一、大澤三之助、関野貞らを中心に、高村光雲、黒田清輝、朝倉文夫、今泉勇作ら彫刻・美術家まで、明治日本を代表する錚々たる造形家たちが参画。

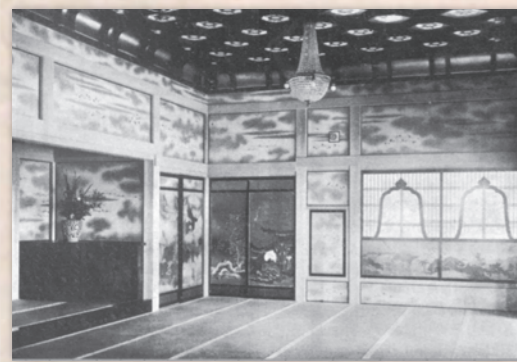
日本だけでなくアジア・欧米諸国の建築・工芸物についても、多数の精緻な写真をはじめ、設計図、平面図、研究、鑑賞、評論、紹介記事などを収録。

『建築工芸叢誌／建築工芸画鑑』とは

伊東忠太や高村光雲らを評議員とする建築工芸協会発行による会員頒布の月刊誌。1912年（明治45）2月創刊。協会は「日本古来の凡ゆる建築工芸及びこれが従属物を鑑賞批判し、斯界現在の趣向を察し、将来の進歩発展を期し、これが趣味鑑賞の涵養と共に、努めて、實際上の知識を普及する」ことを目的として設立された。『建築工芸叢誌』は「現代を中心とする図版、及び鑑賞上學術上各種専門家を勞せる記事を以てなれる建築工芸専門の冊子」という位置づけであり、『建築工芸画鑑』には「古来の建築工芸及びその従属物中美術的価値ある代表作を広く撰択して図版としたる画集」という位置づけであった。1912年2月～1916年10月までに、『叢誌』『画鑑』とも第1期24冊ずつ、第2期24冊ずつの計96冊が発行されている。

創刊当時の会長および評議員は以下の通り。

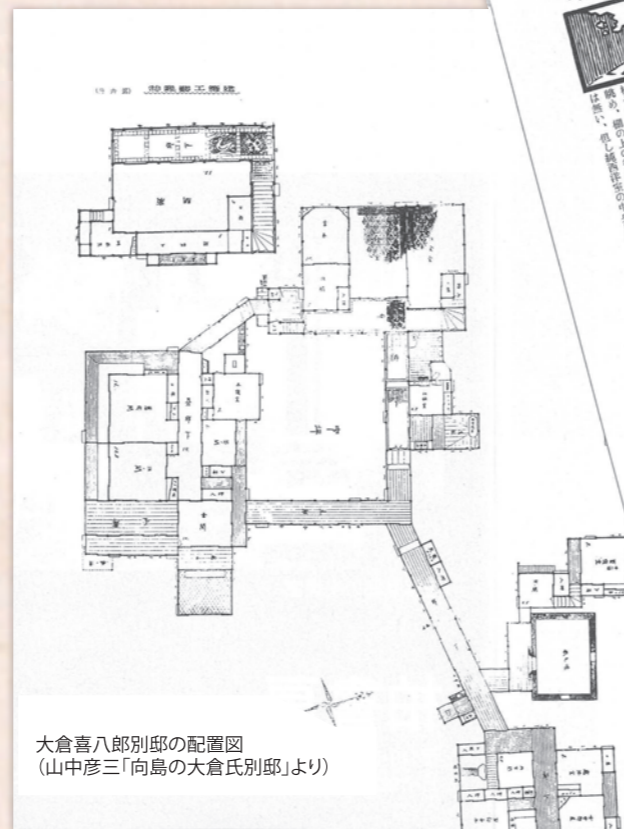
会長・二条基弘（公爵）／評議員（13名）・伊東忠太（東京帝国大学工科大学教授）／今泉雄作（東京帝室博物館美術部長）／新納忠之介（日本美術院第二部〈奈良〉主任）／岡田信一郎（早稲田大学教授）／大澤三之助（東京美術学校教授）／亀岡末吉（京都府技師）／高村光雲（東京美術学校教授・帝室技芸員）／塚本靖（東京帝国大学教授）／中川忠順（東京帝国大学文科大学講師）／正木直彦（東京美術学校校長）／藤谷栄尾（東京帝室博物館美術部技手）／古宇田實（東京美術学校教授）／関野貞（東京帝国大学工科大学助教授）。



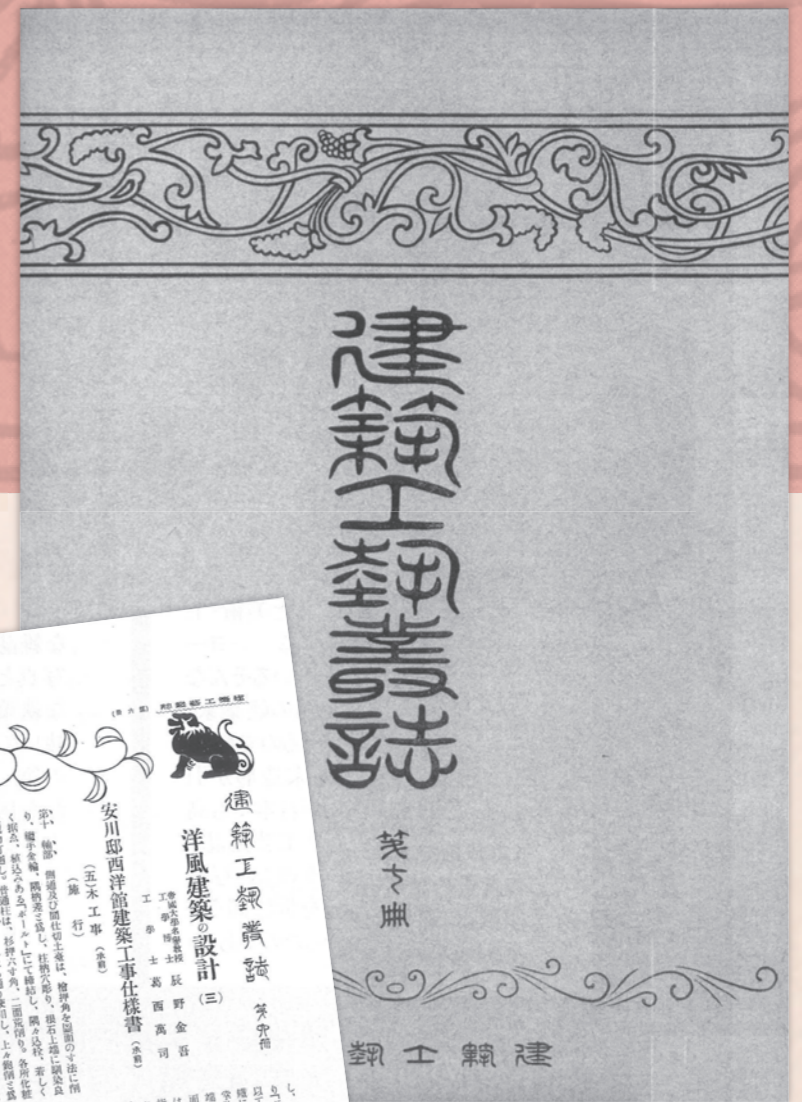
大倉喜八郎別邸「藏春閣」の階上大広間（山中彦三「向島の大倉氏別邸」より）



浅野総一郎（浅野財閥創始者）新邸の階下大広間と喫煙室



大倉喜八郎別邸の配置図（山中彦三「向島の大倉氏別邸」より）



『建築工芸叢誌』第7冊表紙（縮小率37%、原紙サイズは縦380ミリ／横266ミリ）



（縮小37%）



太平楽御置物（宮内省御物、海野勝現「太平楽御置物」より）